

教育後援会通信「ちから」



保護者見学会 三菱重工業（株）にて



バス車中にて

「保護者見学会」に参加して

教育後援会副会長 熊崎 圭吾

6月21日、前日の強い雨がうそのような好天に恵まれ、平成14年度教育後援会保護者見学会が実施されました。バス3台を連ねて、三菱重工業（株）産業機器事業部及び（財）名古屋港水族館を見学しました。

三菱重工業（株）では、限られた時間のため各機器類を部分的に、早足で見学した次第です。しかしながらそのスケールの大きさと精密さに驚くと同時に、もう少しじっくりと見学し、本校卒業生の活躍などもお聴きしたかったのが本音であります。又来年度の課題として提案できればと思います。

特に印象に残りましたのは帰路のバスの中でのことです。まず保護者の方々の自己紹介に伴い、4・5年生保護者の方は、就職に関しての質問、2・3年生の保護者の方は、今後の授業や進路に関しての質問が多く、その都度先生方より説明アドバイスがあり、大変参考になりました。

思えば、保護者同士で意見交換の機会が少なく、保護者からみた学校の状況や進学・就職に関しての体験談などが提供できる後援会。

また、保護者の意見が反映でき、利用していただける後援会を目指して、前役員・現役員試行錯誤しながら、ようやく教育後援会事務局を立ち上げることができました。今後とも、教育後援会にご理解・ご協

力をお願いすると共に、事務局にも立ち寄っていただき「絆」の場にしていただければ幸いです。



「保護者見学会」に参加して

5年機械工学科 保護者 犬飼美代子

6月21日(金)に行われた平成14年度 教育後援会保護者見学会に、今回初めて参加しました。

今年の見学先は名古屋市中村区にある三菱重工業(株)産業機器事業部。まず工場の敷地の広さに驚きました。

押出成形機、射出成形機、食品・包装機械、業務用洗濯機、産業用ロボット、変速機・歯車といった各種産業用機械や、農業・園芸用小型エンジンなど、日常生活に密着した製品を生産している等の会社概要を聞いた後、参加者96名は順次小グループに別れ、一部工場内を案内していただきました。

機械音の響くなか、工場内の作業内容を区分するために、床の色を一部変えたことで部品の取り違えがなくなったことや、ケガの発生箇所・内容を他の作業者に知らせて把握させることでケガの件数が減った、など提案活動で出たアイデアを採用してうまくいっている例をいろいろ聞きました。

岐阜高専の卒業生が就職している会社への訪問に以前から興味はありましたが、なにしろバスの同乗者が知らない人ばかりかと思うと、ちょっと腰が引けていましたが、それは杞憂にすぎませんでした。岐阜高専に関する情報等も聞けて、楽しく、有意義に過ごすことができた一日でした。



「保護者見学会」に参加して

電子システム工学専攻2年 保護者 北川 晃

今年の見学箇所は、三菱重工業(株)産業機器事業部と(財)名古屋港水族館の見学でした。岐阜駅南口より観光バス3台を連ね出発、車中の挨拶も済み、しばらくして教務の先生が学校の生活環境や学生の生活習慣について気づかれたことなどを紹介され、さらに一般学生や卒業間際の学生の就職、進学問題などにも触れられ、ご心労をおかけしていることがよくわかりました。

10時、予定の三菱重工の工場に着き、産業機器事業部の説明を受けてから、現場の視察順回路を案内されました。広大な敷地にいくつもの場棟が重なる中で感じたことは、高額機器の注文製品は、中国向けのものが多く、働く人も比較的少なく往時の基幹産業としての三菱の姿はありませんでした。その後、観光バスで名古屋港水族館に移動し、館外で昼食後、入館することになりました。今年になって、ウミガメの産卵があり、北極ペンギンの生息ができることになって水族館は一段と人気上がり、入館者もこの夏は増加するだろうと説明がおりました。私は、水族館の主要箇所を見逃すまいと計画的に移動し、有効に見学



を終えることができました。今日一日、充実した社会見学ができ、改めて企画された方々に感謝申し上げます。

『学校は、いま？』一時の話題 課題を探る一

今回は、教務主事の水野教授に「規格化と個性化」について書いていただきました。また今年度で退官されます電気情報工学科の武富教授、建築学科の大澤教授、機械工学科の南部助教授の御3名の方から投稿を戴きました。

規格化と個性化 一JABEEによせて一

副校長（教務主事） 水野耕嗣

いま本校は平成14年度後期でのJABEE（ジャビー）の認定を受けるために奔走しております。とはいえ保護者の皆様には、「ジャビー、ジャビーと学校は言われますが、それは一体何？何のために？何（得）になるの？」という素朴な質問が沸々とおありになるのではないかと思います。

JABEE（ジャビー）とは Japan Accreditation Board for Engineering Education の短縮形で、訳すと「日本技術者教育認定機構」の横文字省略なのです。

このJABEE制度の目的は「技術者教育の改善・技術者資格への連動・国際標準への対応」なのです。従来から技術者の重要性は叫ばれていながら、結果的にはその評価が、弁護士や医師、建築士、公認会計士のような位置付けにはなっていないのが現状です。しかし海外ではこの技術者（エンジニア）には「技術士」といって、社会的ステータスは高く、当然報酬もそれに見合ったものがあります。そこでわが国でも技術者を「技術士」として価値を高めるため、その技術者教育に秀でた学校の教育システムを「JABEE」認定ということにします。比較してよいか分かりませんが、工場などの「ISO 9000 シリーズ」の品質保証と品質管理に関する国際規格化に、ある面では近いものともいえます。

しかしJABEE認定といっても、本科の学生の総てに影響があるわけではありません。

それは大学1・2年に相当する本校4・5年生の成績が関連します。専攻科へ進んだ学生や他大学への編入生には直接関係し、所定以上の成績をあげれば学生個人が「認定」され、『技術士』の試験（大変難関です）の「第一次試験が免除」されるメリットがあります。するとまた次に、「本科だけで卒業する学生に何の得も無いのに何故するの？」と言われると一寸戸惑いますが、この認定を受けるには、その学校全体の教育システムがきちっとしていることが大前提なのです。例えば「本校の教育目標は何なのか、教育の質を維持するにはその教科内容（シラバス）が適切か、またその授業はきちとなされた（最低15回）か、さらにその授業は学生に確かに教授されたのか、その教授されたものを評価（試験など）する場合その評価が学生に適正であったのか、また先生の授業が一方的ではなく、学生の授業評価で改善されたか」など、ほんの一部を分かりやすく挙げましたが、JABEEの認定を受けるには、これら以外にも膨大な関門（先生の業績や事務面での学生

支援など)があります。

JABEEは大学レベルでの認定が一般的ですが、高専も専攻科を設置している所では取り組まざるをえないものになっています。なお学生を雇用する企業側のメリットとしては「保証つき新入生を雇用できる」点で、本科の学生の就職にも影響はあることになります。

高専ではすでに宮城をはじめ数校が試行認定の状況なので、東海地区での先頭を切ろうというのが本校の願望です。世界的に通用する質の高い技術者教育が基本です。大局的に言えば、技術者教育の世界的規準化の一環ともいえます。

従って本校でもこの取り組み以後は、教官や事務官の教育への意識は大きく変わってきたという波及効果が感ぜられます。

教育システムは規準化されても、その教育内容(中身)は絶えず変化しなければなりません。

しかし肝心の授業の受け手である学生諸君は、あまり規格化されず、高い質を得た個性的な技術者になることを願っています。

ソフトテニス楽しい

一定年をまえにした一教官の想いー

電気情報工学科 武富喜八郎

高専ではいろいろな仕事は分担させられます。仕事の中で比較的自分の希望がなえられるのは、クラブ顧問ぐらいだと思います。(授業や研究分野もそれ程自由にならない)

私はたまたま中学時代から親しんだ軟式庭球(今ではソフトテニスと改称)が本校にも運動部として存在し、運良くスタートの頃から今日まで40年近く係わることができました。言うまでもなく、学生は学科や学年を問わず、何か惹かれるものがある、クラブに入って活動します。ソフトテニス部恒例のOB会には、各地で様々な分野で活躍中の先輩たちがラケットを持って集まってきます。昔に返った気分で、現クラブ員と交流試合をしたり、OBだけの賞品がかかった試合を楽しんでおります。私はソフトテニス部で青春を過ごしたクラブ員と沢山交流ができ、喜びと悔しさを共に味わうことができました。そして立派なクラブ員にも多く恵まれました。スポットライトをあびることなく、クラブの下支えで卒業して行った人もいます。それらの卒業生たちが、今もなつかしんで顔をだしてくれています。5年間のクラブ活動により、人間的な触れ合いで得られた成長のふる里を訪ねてくるのかも知れません。

私のこれからは、ソフトテニスで巡り会えた多くの卒業生、それに岐阜高専のクラブ員との触れ合いを大切にして楽しく過ごしてゆきたいものです。最後に、多くのソフトテニス関係者に感謝申し上げます。



校舎雑感

建築学科 大澤 徹夫

33年前新任教官として赴任したころ、校舎は1号館から3号館までと第一体育館が完成していた。建築学科増設が創設5年後であったため3号館の建築学科棟は新築されたばかりで面積も既設3学科よりやや広く、特に着目した点はアルミサッシュが採用されており一部外壁がタイル張りであることで、校舎の近代化上質化志向を微かながら感じられた。一方、校舎の配置はとみると南北方向の中央通路に建物を櫛型に配置する所謂フィンガータイプで、大学のキャンパスとは雰囲気には大きな違いを感じたものである。その後、学科、専攻科増設などで施設は倍増したが、すべて中央通路の延長によって対処されている。

以上の経緯と現況からみると建物内外とも施設は突き詰めれば必要な部屋とその間を効率よくつなぐ移動のための廊下、通路のみで構成されていて、立ち止まり、談笑し、或いは座して瞑想するなど思い思いに振舞えてアルファード波がでるようなゆとり空間に乏しい。時節柄多額の費用を要する建物などは望むべくもないので屋外に目を転じてゆとり空間となり得るところを探してみるといくらかでもあることに気づく。それは建物と建物の間の空間である。今は一本の細いアスファルト道路が通っていて、その周辺の空地は維持の難しい芝生か、灌木で囲まれて立入り禁止状態の庭となっている。ここを地面はフラットに均し透水性カラーペーパメントを敷き、植栽にはいまや緑のトンネルとなりつつある高専道路のように大木となる喬木を植え、石のベンチなどを要所において広場のようなゆとり空間をかたち作るとよいのではなかろうか。その際、中央通路から容易に出入りできるような配慮が必要だろう。一部に光透過性の強化プラスチックの天蓋を設けるのもよい。定年退官にあたり、ささやかな提案をさせて頂いき、



惜別の情の遣り場に戸惑いながら本校をあとにする。永きに亘ってお世話になった多くの方々、皆様に深謝しつつ、本校と後援会のご発展をここからお祈り申し上げる次第である。

工学実習における物造り教育について

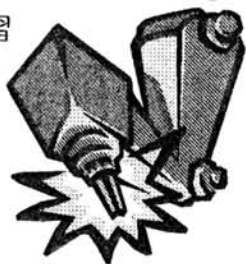
機械工学科 南部英夫

日本は資源のない国である。今後も物造りを中心とした産業構造を維持すしか生きる道は無いのではないだろうか。ところが最近、中国や東南アジアの国々等にその地位を脅かされている。以前は技能オリンピックで圧倒的強さを誇っていた日本も韓国にトップの座を奪われて久しい。更に、中国は技術の分野で、日本を5年遅れで追いかけてきている。各国が生産拠点をコストの安い中国に移しているの、物造りのノウハウを吸収し中国企業の技術はどんどん向上している。日本が今後も物造りで立国するには、高くても購買意欲をかきたてる様な付加価値を付けた製品の開発が必要になってくる。それ等はすぐに類似品が出回るので、次々と新しい付加価値を求めて開発を継続していかなければならない。

それには応用力の優れた技術者の養成が不可欠である。

高専における教育もその線に沿った教育が急務ではないだろうか。私が担当している工学実習を通して最近の学生を見ると、ほとんど欠席はなくまじめに実習にとりこんでいる。感想も実習は面白いと答えてくれる。しかし、こちらの言った事はしっかり出来るがそれ以上の事を自発的には余りやらない様に思われる。次に何をすればよいか聞きに来る。これでは応用力は身に付かない。

今後は、基本を身につける事に時間をかけ、身に付けた基本を応用して自分の力で次の課題を見つけ解決できる様な力を付けていく事が必要ではないかと痛感している。



<投 稿>

めざせ！！ 高専大会全国制覇

野球部3年 母親

『し・ら・き・・・し・ら・き』突然スタンドからの大声援に、私達3年生の親は裏方の仕事をそのまま放り出してグラウンドの一塁手に釘付けとなりました。待ちに待った白木君の登場です。8回2アウトから一塁に入った白木君。ユニホームの下には、試合直前の7月11日、鎖骨骨折をし、テーピングで固定した身体があったのです。9回先頭打者としての白木君。バットを振るたびに痛みが…。見てる私達にも伝わってきます。そして涙が頬を伝わってきます。ファールボールを何度も打つ度に痛みがますます顔をしかめます。

思わず“白木君もうやめて！！ 身体が…” なおも続くファールボールに誰もが固唾を飲んで見守っていました。

無情にもバットが空を切った時、何故だか安堵したのは私だけではなかったと思います。

次打者が倒れ、なんとラストバッターには我が子が……。ショートへ打った白球が堅い野手の守りに阻まれ終わりを告げるウィニングコールと化してしまいました。(その瞬間、どっと涙が溢れ押さえる事は不可能でした) こうして彼らの暑い夏はベスト16という結果で幕を閉じました。

思い返せば2年生の秋季大会、県大会出場は出来なかったものの県下選抜大会では、決勝まで進み惜しくも敗れはしたが、準優勝。そして冬を越し、一廻り成長した彼らは春季大会地区予選を4戦全勝で飾り、1位決定戦では、清翔・岐阜北を破り、岐阜地区優勝という偉業を成し遂げました。徐々に頭角を表した岐阜高専ナイン。春季大会では迎えた3回戦、この夏準優勝した市岐商に延長の末に1点差で負けてしまいましたがベスト8の成績を残しました。このような素晴らしい成績が残せたのも麻草監督初め諸先生方の指導のおかげと感謝しております。又先輩方、各関係者の皆様、暖かい応援をありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

高野連の野球は終わっても、高専大会の野球はまだ2年あります。これからは今まで以上に磨きをかけ



“ 目指せ！！ 高専大会全国制覇 ”

<お知らせ>

◎ 岐阜工業高等専門学校 **高 専 祭**

平成14年10月26日(土) 全日公開

平成14年10月27日(日) //

テーマ「**でらうま**」

- ・ロボコン披露 ・専門展 ・フリーマーケット ・バンド ・バザーなど
- ・タレント「**アメリカザリガニ**」が出演予定

多くの企画などに学生1人1人が力を合わせてがんばりますので、是非 見学に来てください！。

◎ **アイデア対決・全国高等専門学校**

ロボットコンテスト2002 東海北陸大会

平成14年11月3日(日)岐阜アリーナ(岐阜市藪田2-2-1)

この模様は NHK総合テレビ

平成14年11月23日(土)

9時15分～10時14分 に放映されます。

※ **岐阜高専が当番校としてロボコンを開催します。**

是非！会場でご覧下さい。連絡先 TEL 058-320-1211

◎ **開校40周年記念事業の実施**

明年は、本校が昭和38年に創立されて40年になります。この40周年をお祝いして下記のように、40周年記念式典と特別講演会を行います。

記

日 時 平成15年4月26日(土) 13時より

場 所 岐阜工業高等専門学校第一体育館

式典後、学校との共催による特別講演会を実施します。講師として丸山浩路氏(NHKニュースキャスター)を予定しています。

演題や講師のプロフィールは、次号でお知らせします。多くの方のご出席をお願いします。

以上

◎ 教育後援会地区保護者懇談会の実地

平成14年11月 9日(土) 飛 騨地区(会場:高山市民文化会館)
平成14年11月 9日(土) 滋賀県地区(会場:彦根勤労福祉会館)
平成14年11月10日(日) 東 濃地区(会場:東野公民館)
平成14年11月10日(日) 岐 阜地区(会場:県民ふれあい会館)
平成14年11月16日(土) 美濃・可茂地区(会場:アピセ・関)
平成14年11月17日(日) 愛知県地区(会場:一宮市産業体育館)
平成14年11月17日(日) 西 濃地区(会場:ソフトピアジャパンセンター)

多数ご参加下さい。地区懇談会の返信はがきを出していない方、不参加から参加に変更される方は、地区役員又は、学校まで連絡をして下さい。
岐阜工業高等専門学校 TEL(058)320-1233(目加田まで)

＝編集後記＝

いつの時代も私たちは友達を求めています。最近では、インターネットによって、場所や時間に関係なく、ますます人と人が簡単に会えるようになりました。しかしどれほど簡単に会えても、人間が関係を持つとすぐに悩みが生まれ、関係が深くなればなるほど、そこも葛藤が始まることは変わりません。

「国語」の時間に聴かれた兼好法師の「徒然草」のなかに、「友とするにわろき者」という段があります。この段には次のような意味のことが書かれています。

すなわち、「友とするに不適當なものが七つある。その第一としては身分の高貴な人、第二には若い人、第三には無病頑健な人、第四には酒をたしなむ人、第五には武勇にはやる武士、第六にはうそをつく人、第七には欲の深い人、」また、「友のうち最もよい友が三つある。第一には物をくれる人、第二には医者、第三には知恵のある人」と。上記のことを考えてみると、いろいろの考え方があろう。まず「高貴な人」との交わりは自己を屈し、心を労することが多い。「若い人」と交われば、その旺盛な体力・気力に引きずられて無理をし、身を損なう。無病頑健の人との交わりもまた同様で、かつ、そういう人は思いやりに乏しく不快を感じさせることが多い。四以下の人は友として不可なのはいうまでもない。益友の第一に、自分を助け支えるものをあげたのは、著者兼好が出家としての乞食生活を公表したもので、多少その清閑な生活をてらったのかもしれない。第二に医者をあげたのは、わろき者の第三に「病みなく身つよき人」を言ったのを参照すると、兼好がもしかすると健康に自信がない人であったのかもしれない。第三の「知恵のある友」は、信頼すべき相談相手として誰しも望むところのものであろう。岐阜高専での学生生活を通して、自分自身の人間形成に少しでも参考になれば幸いです。

(事務局 渡部 卓郎)

発行：岐阜工業高等専門学校 教育後援会事務局 TEL・FAX(058)323-8752
〒501-0495 岐阜県本巣郡真正町上真桑 2236-2 E-mail: sui4@gifu-nct.ac.jp